

# 平成25年度事業報告

## 1. 営業の概況

### (1) 営業の経過及び成果

富山西インターチェンジは、供用開始以来11年が経過し、周辺地域からの高速道路へのアクセスや物流の効率化、文化・観光の振興、広域医療の推進など地域の発展に大きく寄与しているところであります。

平成20年7月には、連結する東海北陸自動車道が全線開通されたことから、より一層の利便性の向上が図られているところであります。

こうした中、インターチェンジ周辺開発事業である企業団地への入居につきましては、第1期事業の金屋企業団地には、29社が、第2期事業の呉羽南部企業団地には、18社が入居しております。

平成26年3月31日現在の残りの分譲地は、呉羽南部企業団地で1区画であります。鋭意誘致活動を行ってきた結果、残る1区画につきましても、平成26年6月に新たに1社入居し、入居率100%を達成する見込であります。

なお、当期分のインターチェンジ建設負担金預り金につきましては、金屋企業団地、呉羽南部企業団地の合計で89,477千円となっており、(独)日本高速道路保有・債務返済機構(略称：高速道路機構)へのNTT資金償還金に充当しております。

### (2) 対処すべき課題

平成33年度までに償還予定のNTT資金の残額は、当期末で512,694千円となっており、償還金の財源である建設負担金預り金の確保のため、定期借地の賃貸企業に対する用地買取りの促進等についてより一層努力してまいります。

### (3) 企業団地への入居におけるインターチェンジ建設負担金預り金の状況

	第17期まで	第18期	第19期	計
一括分譲	639,950千円	0千円	16,223千円	656,173千円
割賦分譲	13,046千円	2,478千円	986千円	16,510千円
借地	317,618千円	72,199千円	72,268千円	462,085千円
計	970,614千円	74,677千円	89,477千円	1,134,768千円

※各期千円単位で四捨五入しているため計が合わない場合がある